

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区新橋5丁目35-10 新橋アネックス1階
園名	こころナーサリー新橋

1 活動のテーマ

<テーマ>

表現（絵本）

<テーマの設定理由>

本園は 012 歳児を対象とした小規模保育園であり、園庭がないため環境が限られている。その中でも子どもたちが主体的に活動するには、どんな環境を整えると良いのか日々模索していた。朝夕は合同保育になるため、提供する玩具の設定も難しい。その中でどの学年も楽しめるわらべうた絵本を揃えたところ、とても興味を持って自らページをめくったり、「読んで」と自分の好きな絵本を保育者のもとへ持ってくることも増えた。保護者のアンケートから「どんな絵本を読んだら良いのかわからない」「絵本を読むことは良いことだとわかっているがなかなか家では沢山の絵本を読んであげられない」などの悩みもわかった。現在保育室に本棚や決まった絵本スペースが無いため、そのための環境構成や、子どもたちのお気に入りの 1 冊を見つけたり、大好きなお話の世界に入り込み、保育者や友だちと楽しむために表現（絵本）というテーマに設定した。

2 活動スケジュール

5月27日（火）『はらぺこあおむし』
8月26日（火）『ばけばけばけばけばけたくん～おまつりの巻～』
9月29日（月）『モンスターズインク』
11月13日（木）『さつまのおいも』
1月27日（火）『塔の上のラプンツェル』
3月24日（火）『ねずみさんのおかいもの』
保護者へのおすすめ絵本紹介…6回発信
保育室への絵本棚の設置…3月12日（木）
職員室絵本コーナーの設営…3月25日（水）

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

絵本、お話の世界に入るために設定したコーナー遊び、絵本棚、絵本スペースの絨毯、保護者へ発信するための資料等

4 探究活動の実践

<活動の内容>

日常的に絵本を読む機会を増やし、子どもの表情や反応、発する言葉を汲み取って読み進め、子どもたちの興味関心からコーナー遊びを設定し、よりお話の世界に入り込み、理解を深めた。

絵本棚を設置し、いつでも絵本に触れ合える環境、主体的に選べる環境を作った。保護者へおすすめの絵本の掲示をした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

毎月テーマの絵本を選び、絵本の世界に入り込めるようなごっこ遊びの設定をした。012歳児の年齢ではあるが、絵本の登場人物や場面に親しみを持ち、「憧れ」を体験したり、絵本に出てくるものを実際に見たり、味わったりすることで更にイメージを膨らませることができた。活動を終わるとより、その絵本により興味が湧いているようだった。また絵本を通して言葉のやりとりも広がった。子どもが絵本を通してした表現に「○○だね」と言葉にして表現することを繰り返した。子どもたちも「伝わった！」という喜びを表現する場面があった。年下の友だちに保育者の真似をして絵本を読み聞かせる姿も見られた。しかけ絵本、大型絵本、季節に合わせた絵本を提供することで子どもたちの集中力も高まった。絵本棚の使い方については、よじのぼったりしてしまう子も多く絵本を置く場所という認識は薄い。絵本コーナーを設置したことで活動をわけることができ集中できる環境、ゆったりとくつろぎ安心できる環境として気に入っているようだった。



5 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

日常的に絵本を手の届くところに設置したところ、子どもの興味関心が湧いているのがよくわかった。絵本を通して「同じ」や「あった」という言葉のやりとりから日常に取り入れることができた。

テーマの絵本を決めてごっこ遊びやコーナー遊びを設置することで、保育者が絵本を通して子どもの姿を見取り、予想して保育の環境設定をすることができた。

絵本に出てくる物の本物を見たり触ったり味わったりを体験することで、子どもたちの興味関心や保育者、子ども同士のコミュニケーションにもつながった。

しかけ絵本や大型絵本、季節に合わせた絵本に興味を持ち、子どもたちの反応から保育者の絵本の選択肢も広がった。また、日本語以外の絵本にも興味を示していたため今後の保育の展開につなげていく。

絵本が身近になったことで手に取りやすくなった分、破損も増えた。絵本のお約束を保育者が考え、絵本を大切にきるような言葉がけや約束、また本を破いてしまったり破損させてしまった場合に本を入れる「絵本の病院」を設置し、子どもの前で絵本を修復させること、みなと図書館のリサイクル図書の活用で大事に使う意識も高まった。

絵本棚の設置については、よじ登ったりしてしまったり、深みがあり、絵本の表紙が見えず選びにくいなど使い方の改善点があった。表示をつける、上げ底する、絵本の選択など環境構成の重要性を改めて感じ、今後取り組んでいく。

2歳児クラスはみなと図書館を利用し、自分の好きな絵本を選び借りる、年下の友だちが好きそうな絵本を借りてくるなど、絵本をとおして地域との関わりも増えた。次年度はみなと図書館との連携を深め、月1会の読み聞かせ会を実施する。

おススメの絵本を保護者へ発信した。反応もあり、子どもの好きな1冊を見つけるきっかけとなり、大事なコミュニケーションの1つだと感じた。

1年通して取り組み、絵本は言葉や知識を高めるために必要なツールだと感じた。

また昔ながらの子どもたちが大好きな絵本はもちろん、新しい絵本もたくさん出版されているので子どもたちにどんどん提供していきたい。012歳児にとって絵本は貴重なコミュニケーションツールだと学び、今後も多く取り入れていく。